



オリンピックに思う79回目の夏『長崎原爆の日』



先月7月24日のサッカー競技に始まり26日の開会式から、「パリ2024オリンピック」が開幕しました。4年に1度のスポーツの祭典です。(元)スポーツマンの私としては、それぞれドキドキ、完全に寝不足気味です。終業式の式辞でも皆さんに「筋書きのない様々なドラマが展開されるはずだ。アスリートやチームの姿から何かを感じ取ってほしい。夏休み明けにはパラリンピックも控えている。」と話しました。連日展開される選手一人一人の「心・技・体」あふれる力

強くも繊細で確かなパフォーマンスの数々から様々な感動や学び、勇気や希望を得ているのではないのでしょうか？

1896年に始まった現在のオリンピック(近代オリンピック)は、紀元前9世紀ごろから古代ギリシャで行われるようになった「古代オリンピック」を起源としています。この時代、大会期間中は停戦期間となり、争いや戦いが禁じられていたそうです。この考え方は、現代にも大切に受け継がれてきました。しかし、選手を出場させないボイコット問題や、難民選手団としての出場や国の代表としてではなく中立選手としての出場など、制限が加えられてきた歴史があります。また、残念なことに市民の命が脅かされる戦闘が未だに続いている国もあります。

「オリンピック」は、様々なスポーツのアスリートが集まり、世界ナンバーワンを決める大会ですが、単なるスポーツ大会ではありません。近代オリンピックの父といわれるフランス人のクーベルタン男爵は、オリンピックの理念として、「オリンピズム」を唱えました。これは、「スポーツを通じフェアプレーの精神のもとに身体と精神を鍛え、文化や国の違いを超えてお互いに理解し合い、友好を深め、さらには世界平和に貢献していこう」という考え方です。この考え方は、クーベルタンが考案した五輪のマークにも表れています。「青、黄、黒、緑、赤の色は、地色の白を加えると、世界の国旗のほとんどを描くことができるという理由で選んだ」と彼自身が書き残しています。また、5つの輪は5大陸の固い結びつきを表しています。

今、世界中で「戦争」や「テロ」の恐怖が広がっています。実際に悲惨な状況に苦しんでいる人々がいます。ニュース等で報道されているとおりです。今回のオリンピックが、「平和の尊さ」や「国を超えた人と人との友好」について、世界中の人々がその思いを確かにする機会となればと思います。

私たちも、勝った負けたやメダルの数に一喜一憂する、競い合うことに目を向けるばかりではなく、「フェアプレー」「友好」「相互理解」「世界平和」などの視点から、オリンピックを見つめてみたいものです。また、オリンピックに引き続いて、障がい者スポーツの祭典「パラリンピック」も始業式の翌日28日から開催されます。ハンディキャップを理由にせず、自己の限界に挑む競技者の姿から、私たちは多くのことを学ぶことができます。

長崎原爆の日、県民祈りの日を迎えた今日、長崎に住む一人として世界平和に思いを寄せ、友達、仲間を大切に、全ての人々が安心して楽しく生活できる身の回りの平和から大切にできる一人として、日本選手団のアスリート、そして、世界中の素晴らしいアスリートたちの活躍に、声援を送りましょう。平和は、私たちが創る、築くものです。



8月の行事予定

- 9日(金) 全校登校日(平和学習) 県民祈りの日
- 10日(土) 学校閉庁日(～18日)
- 18日(日) 家庭の日
- 27日(火) 2学期始業式
- 28日(水) 実力テスト①(給食開始)
- 29日(木) 実力テスト②
- 30日(金) 授業(午前中: 週行事による)

9月の行事予定

- 2日(月) 食育指導(3-1)
- 3日(火) 食育指導(3-2)
- 4日(水) 食育指導(3-3)
- 5日(木) 食育指導(3-4)
- 6日(金) 授業参観、学年・学級PTA
- 15日(日) 4校PTA球技大会、家庭の日
- 16日(月) 敬老の日
- 20日(金) 2年事業説明会 株主募集会 テスト前部活動停止(～25日)
- 22日(日) 秋分の日
- 23日(月) 振替休日
- 24日(火) 専門委員会
- 25日(水) 中間テスト(1-2年)、実力テスト(3年)
- 26日(木) 中間テスト(1-2年)、実力テスト(3年)
- 27日(金) 市中総体駅伝競走大会激励会 生徒集会、表彰伝達

飛耳長目

日本の昔話の一つ「手と足の話」を紹介します。

手と足はよくけんかを見ます。手が懐手をしているのを見た足は、すぐに怒って言います。「その懐手は我慢ならない。俺は一日中立ったり座ったり働き通しているのに、お前は知らん顔をしている。俺が疲れて座ると、お前は俺の膝の上に乗って平気な顔だが、何という分からず屋だ」と。手は、大声で言い返します。「この恩知らずめ、お前のかゆいところをかいてやったり、痛い所をなでてやったり、足袋を履かせるのもみんな俺だ。風呂にもお前を先に入れている。少し考えてものを言え」と。お互い言い分は絶えません。

この話から二つのことが思い浮かびました。一つは奉仕の心と感謝の心について。もう一つは、人間は一人では生きていけないということについてです。

「施して報いを願わず、受けて恩を忘れず」という言葉があります。無償の施し、そして優しさをもてる人ばかりになると世の中は平和に近づくのかもしれない。手や足がそれぞれ自分の役割を果たしているから、あなたも生きていけるのです。